

経済評論家 勝間和代さん

努力報われる社会に 指導者の役割



■日本「少し優勢」

「日本は少し優勢」
—— 明けましておめでどうい
います。しかし、今年はそのん
きなことも言われていません。
世界経済も日本経済もピンチのま
まとあって、無気力感や閉塞感が
充満しているように感じますが
勝間 いろいろな統計デー
タから顕著に表れているの
が、今の若年層の4人に3人まで
が「努力が報われる」と思ってい
ないことです。さらに、自分の親
世代より状況が悪くなると思っ
ているんです。

「少し優勢」
—— うーん、年が明けてもそれ
では気力は出ませんね。大逆転の
「羽生マジック」が必要な局面で
すが、気力で何とかなるものでし
ょうか
羽生 あれば相手まかせて
す。将棋というのは、優
勢な局面は選択肢も分かりやす
く、いい循環が始まるんですが、
ミスをして動揺すると局面が混沌
としてしまう。そうなる相手ま
かせ。しかし、そういう状況のほ
うが打開策を考える。将棋って、
基本的に一手差でやっています、
それ以上差が開いたら勝負がつい
ちゃう。だから、あきらめずにつ
いてゆく必要がある。根気とか気
力がどこまで持続できるのかはあ
ります。

「少し優勢」という局面のほうは、
心情的にはきついんですね。
勝間 今の日本が指している
将棋はまさに「少し優勢」
な局面だと思っんです。ちょっ
とでも悪手を指すと、あっとい
う間に新興国に負ける状態です。
羽生 しかし、小さな危機の
時はミスもしますが、本
当に大きな危機に直面したとき
て、人間は正しい選択をするよう
な気がするんですね。このところ
の危機はどう見ても小さいとは思
えないんで、底力はかなり期待で
きると思います。
—— 経済専門家のお立場から脱
出方法を考えると
勝間 好況だったわけで、産業
改革や構造改革の動きが鈍化して
いた。大手メーカーが頑張ってく
れば大丈夫だと思っていたが、
幻想だと分かった。状況を好転さ
せるためには根本から考え直さな
ければいけない。一つはこれまで
避けてきたグローバル化を
進めよう。どこまで外需と内需のバラ
ンスを取るかをもう一度考え直さな
ければならないんですが、内側だ
けでは解がないので、どうやって
もっと海外に投資したり、日本に
外資を誘致したりして産業を活性
化するかを考えなきゃいけない
んですよ。

■解決策は「出島」

海外資本や外国人労働者受
け入れはハードルが高い
勝間 エマニエル・トッド
という文化人類学者も指
摘していますが、実は「いここ
婚」を許している文化の国におい
て、移民はあまりうまくいって
いないんです。つまり、日本も難し
いことになりま。他民族を自分
と同質のものとして受け入れる文
化的素地を、日本はここ2000
3000年は作っていない。
—— 将棋界では海外交流は
羽生 これからです。将棋
というゲームは、歴史や
文化、伝統、思想などが色濃く反

■教育の機会平等

いじけてしまう
勝間 化」といわれる特殊な文
化が育つてしまう。民主主義の基
本は、「努力すれば報われる」と
いうことをみんなが信じて、自分
の能力を最大限に発揮することな
りますが、そうではなくてき
ている。平等に機会を与えること
が、リーダーたちの役割だと思っ
ています。
—— 機会の平等とは
勝間 教育ですね。日本は教
育に対する公的支出が不
足しています。不足は家計が埋め
ています。すると、対応できない
家庭の子供は格差の再生産に巻き
込まれてしまう。学歴不足で就職
チャンスも低くなる。収入も落ち
る。結婚も難しくなる。どんな階
層に生まれようと、少なくとも一
定のところまでは上がるチャンス
がある。しかも、その人数をせめ
て過半数にしないといけないと思
うんですね。それから、日本は意
思決定の場に若者が参加できてい
ない。

■女性の活用

大きな変化を好まず独自の
道をゆく
勝間 「ガラパゴス的」とい
う話になるわけですね。
羽生 確かに変わってけると
は広がるのでは
勝間 確かに変わってけると
思います。ただ、私は、
高齢者に対する尊敬も持つべきだ
と思うんです。活躍できる態勢
も整える必要があるとも思う。そ
れから、私が今年最大の課題と申
しているのは、正規、非正規雇
者の均等待遇です。若者の半分
くらいが非正規になってしまっ
るなかで、給料も違っていて、
糸口もないというのであれば、
「頑張れ、頑張れ」といっても無
理ですよ。
—— 非正規雇用者では女性の比
率が圧倒的に高いが
勝間 女性の教育レベルは
いんです。教育支出は
世界7位。ところが活用されて
ない。日本では四年制大学卒の上
性のうち半分くらいしか働いて
ない。そんなぜいたくをしている
は日本ぐらいなんです。
—— 女性の活用という点で、
羽生 女流プロになるか、
協会に所属して(男性



新春 対談

昨年の秋口に起きた米国発の金融
危機を境に後退局面に入った世界経
済は、回復の兆しを見せずに越年し
てしまった。国内に目を向ければ、
政治の混乱も手伝って停滞感や閉塞
感が充満する。それを打ち破り、ピ
ンチをチャンスに変えるためには何
が必要か。窮地に追い込まれてもそ
れを挽回する「マジック」を得意と
する羽生善治棋聖と、「日本を変え
よう」という著作も出してさまざま
な改革を訴える経済評論家の勝間和
代さんに、新年の一手を聞いた。
(聞き手 経済本部長 谷口正晃)

家庭と仕事 バランス見直そう

「教育の機会平等」
いじけてしまう
勝間 化」といわれる特殊な文
化が育つてしまう。民主主義の基
本は、「努力すれば報われる」と
いうことをみんなが信じて、自分
の能力を最大限に発揮することな
りますが、そうではなくてき
ている。平等に機会を与えること
が、リーダーたちの役割だと思っ
ています。
—— 機会の平等とは
勝間 教育ですね。日本は教
育に対する公的支出が不
足しています。不足は家計が埋め
ています。すると、対応できない
家庭の子供は格差の再生産に巻き
込まれてしまう。学歴不足で就職
チャンスも低くなる。収入も落ち
る。結婚も難しくなる。どんな階
層に生まれようと、少なくとも一
定のところまでは上がるチャンス
がある。しかも、その人数をせめ
て過半数にしないといけないと思
うんですね。それから、日本は意
思決定の場に若者が参加できてい
ない。

大きな変化を好まず独自の
道をゆく
勝間 「ガラパゴス的」とい
う話になるわけですね。
羽生 確かに変わってけると
は広がるのでは
勝間 確かに変わってけると
思います。ただ、私は、
高齢者に対する尊敬も持つべきだ
と思うんです。活躍できる態勢
も整える必要があるとも思う。そ
れから、私が今年最大の課題と申
しているのは、正規、非正規雇
者の均等待遇です。若者の半分
くらいが非正規になってしまっ
るなかで、給料も違っていて、
糸口もないというのであれば、
「頑張れ、頑張れ」といっても無
理ですよ。
—— 非正規雇用者では女性の比
率が圧倒的に高いが
勝間 女性の教育レベルは
いんです。教育支出は
世界7位。ところが活用されて
ない。日本では四年制大学卒の上
性のうち半分くらいしか働いて
ない。そんなぜいたくをしている
は日本ぐらいなんです。
—— 女性の活用という点で、
羽生 女流プロになるか、
協会に所属して(男性